

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市通町児童館
2	指定管理者	特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘
3	指定期間	平成27年4月1日から令和2年3月31日まで
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》 24,688人（前年度比 111.5%） 平成29年度 22,137人 平成28年度 23,634人 平成27年度 26,958人</p> <p>《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業</p>
5	収支の状況	<p>《費用》</p> <p style="text-align: right;">（ ）は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指定管理者に支払った費用 26,664千円 （ 26,565千円） ・ その他市が負担した費用 0千円 （ 0千円） <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用料収入 0千円 （ 0千円） ・ その他収入 0千円 （ 0千円）
6	利用者の声	<p>《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者会を実施。</p>

二 管理運営に係る評価

（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ブログの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、発達段階に応じた図書や遊具、遊び場や時間等の見直しを行い、高学年児童も利用しやすい環境づくりに努めている。また、子どもの自発的活動を継続的に支援しており、子どもの意見や視点を児童館運営に生かす「子どもボランティア」が中心となる活動を増やしている。保護者との連携にも努めており、保護者会では児童館の取組みを伝えるとともに、保護者同士の交流の場も設けている。	18/18

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由
加点評価	—

四 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘）による自己評価》
<p>地域連携を深めながら、仙台市の基本方針に沿って、子どもの居場所作りと子育て支援施設としての充実を図った一年であった。</p> <p>◎児童健全育成 4年生以上の子どもボランティア31名が核となり、子どもが企画運営する「こどものまち」をはじめ、一番町七夕作りや手作りホッケー、スイーツ・デコ、おばけ屋敷等、子どもの発想と活躍が多く見られた。少人数ながら中高生の自由来館も増えた。一年を通しての花育・食育や、外部講師の半年間の連続ジャグリング教室など、子どもが集まり活気のある児童館となった。</p> <p>◎地域交流 児童館が実行委員長を担う、遊びでつながるまち作り「てらまちフェスタ」は、町内会他18団体が結集して延べ500名が参加し、乳幼児から中高生や地域の高齢者まで集うおまつりになっている。また、寺社や市民センター、地域の方々の協力により、梅ジュースや干し柿作りを実施し、乳幼児から小学生の自然体験、異世代交流の機会となった。</p> <p>◎子育て家庭支援事業 子どもに関わる近隣7施設との間で、施設利用促進と交流、連携の土台作りができた。保育園とは、相互に講師依頼や事業協力、行事への招待、物品の貸借を行うとともに、情報提供を受けて個別の親子の見守り等の支援も進めることができた。</p> <p>◎児童クラブ 高学年を受け入れる中で、異年齢の子どもが交流し、それぞれがのびのびと過ごすことができるよう、遊具とおもちゃの見直しや遊び場所の区分け、遊戯室を中学生タイムと合わせ高学年に開放するという模索を続けた。学校や家庭で様々なことを抱える子どもたちの成長のひと時を児童館でいかに過ごすべきかに配慮しながら、区の家庭健康課との連携やNPOの支援サポートを活用し、心の受け止めと細やかな関わりを心掛けた。また、保護者会活動を改善し親子交流の場を既存の行事と重ねて実施することで、親子の負担が減り、ともに交流し楽しむ姿が見られた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>地域との継続したつながりを大事にしながら児童館運営に取り組んでいる。</p> <p>児童館が委員長となり開催する「てらまちフェスタ」は、子どもの遊びでつながるまちづくりを目指し、乳幼児から高齢者まで多世代が交流する地域のまつりとして定着している。また、子育て支援クラブ、市民センター、寺院、福祉施設、社会福祉協議会、民生委員児童委員等の協力を得て行う「梅もぎ」「干し柿作り」「もちつき」等の体験活動は、子どもと地域住民との交流の機会となっている。</p> <p>遊びによる子どもの育成に取り組んでおり、定例の「わくわくタイム」では、クッキングや物づくり、映画会等、季節に応じた多様なプログラムを提供している。「からだであそぼう」では、身体を思いっきり動かす集団遊びや運動遊びを校庭や体育館で提供しており、両プログラムともに参加者は多い。子どもの年齢や発達段階に応じて日常の遊びで使用する遊具や図書、施設利用時間等の見直しを図り、利用者の実態に沿った遊びを充実させるための工夫を行っており、評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進室